

第43回日韓技術士国際会議に参加して

永田 泰浩

1. はじめに

2013年10月17日から19日に、世界文化遺産「華城」で有名な韓国の水原市において、第43回日韓技術士国際会議が開催された。同会議はこれまで「日韓技術士会議」という名称であったが、今回より“国際”という単語が追加されており、「日韓技術士国際会議」としての初回会議であった。

会議は10月17日が日韓女性技術士交流会および日韓技術士親善サッカー大会。18日が本会議と晩餐会。19日が研修視察という構成であった。

2. 本会議および分科会

第43回を迎える会議のテーマは「未来科学技術時代における技術士の役割」であった。本会議では同テーマに従い、人口問題やエネルギー問題など、日韓両国が抱える将来的な問題点を踏まえて、経営工学部門の富田武彦技術士が基調講演を行った。

また、午後からは、「国土・環境・資源・エネルギー」、「建設・安全・防災」など5つの分科会に分かれて、日韓両国の技術士による発表が行われた。両国では共通な課題も多く、討論、情報交換が行われていた。



図-1 分科会の開催状況

3. 日韓技術親善サッカー大会

著者にとっては、サッカー大会がメインイベントであった…などということは決してない。嫌々の出場であった。試合は本気マッチ前半戦、エンジョイマッチ、本気マッチ後半戦の3ハーフであった。幸いにも…いや不幸にも本気マッチにフル出場させていただき、ラガーマンの如くボールを追った。

本気マッチの結果は2-2の引き分け。アウェイでの試合ということで勝ちに等しいとも考えられるが、後半途中まで2-1でリードしていただけに、日本代表メンバーの失望感は大きかった。「技術士ブルー」のメンバー達は、文字通りブルーになり、翌日の本会議も忘れ、水原の繁華街で飲み潰れた。



図-2 試合直前の「技術士ブルー」の戦士たち

4. おわりに

世界文化遺産「華城」を歩いて一周。美しかった。「華城」の中に多くの人が生活し、車両が行き交う。「華城」をランニングする人。犬との散歩。世界文化遺産で暮らす魅力を肌で感じた会議参加であった。

永田 泰浩 (ながた やすひろ)

技術士(道路/建設/総合技術監理部門)

(一社) 北海道開発技術センター

